

農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

1. 農村工学技術研修（土木地質）の実施

6月16日（月）～20日（金）の期間、参加人数20名（国：1名、県：15名、土地連4名）で実施しました。

研修内容は、地質調査の基本、土木地質計測、軟弱地盤対策、地すべり対策などの座学とボーリング調査、地下水調査、物理探査などの現地実習及び産業技術総合研究所地質標本館への現地見学を行いました。

研修実施後の研修生からの意見として、「発注者目線での地質調査について教えていただき参考になった。既存資料で調べ、分からないことは受注者に質問し、発注者として責任を持って今後の業務に携わろうと思った」、「座学の後に実習に移ったので理解がしやすかった。実際にボーリング調査を見たり、サウンディング試験や砂置換法について経験できたことで理解が深まった」等がありました。



「土木地質」研修 実習状況（ボーリング、現場密度試験）

2. 農村工学専門技術研修（経済効果Ⅰ．理論）の実施

6月16日（月）～20日（金）の期間、参加人数69名（国：25名、道府県：28名、土地連16名）で実施しました。

研修内容は、費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等を行いました。

なお、本研修は、効果算定業務等を担当することとなる都道府県・土地連職員の受講希望者が多く、毎年募集定員を上回る応募があるため（今年度は約140名の応募あり）、昨年度の60名から今年度は70名と、昨年同様にオンライン研修にすることで定員を増やしました。

3. 農村工学専門技術研修（ダム機能保全Ⅱ）の実施

7月1日（火）～4日（金）の期間、参加人数8名（国：3名、県：4名、水資源機構1名）で実施しました。

研修内容は、堤体の安全管理、耐震性照査等に関する講義及び機能診断に関する現地実習等を行いました。

現地実習は茨城県の御前山ダム及び栃木県の菅又調整池で行いました。御前山ダムでは事業実施中の関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所の職員にも同行いただき、ダムについての説明を受けました。



「ダム機能保全Ⅱ」研修 御前山ダム（監査廊、漏水観測施設）



「ダム機能保全Ⅱ」研修 菅又調整池（上流側堤体、下流側堤体）